

令和 4 年度環境教育関係事業について

1 はじめに

本市では、「札幌市環境教育・環境学習基本方針」（以下「本方針」という。）に基づき、環境教育・環境学習の取組を推進しています。

誰もが、これからもずっと安心して暮らしていくためには、一人一人が身近な環境について真剣に考えて、行動する必要があります。本方針は、今のことだけではなく未来のことを想像し、自分のことだけではなく周りにいるみんなのことを思い、そして、生き物同士のつながりなどの地球環境のことを真面目に考えて、やるべきことを自ら判断し、積極的に取り組む「環境市民」を、学びを通して増やすことを基本理念としています。

本方針の第 4 章には、人々が環境問題を理解し、環境保全の行動を進め、さらに多くの人に行動が広がるよう、札幌市が主体となって推進する四つの取組として「(1)学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進」、「(2)「環境人材」の育成」、「(3)環境教育・環境学習の場と機会の充実」、「(4)普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押し」が示されています。

本資料では、環境局環境都市推進部環境政策課等が行う環境教育関係事業に係る令和 4 年度の実施状況及び今後の実施予定について、これら四つの取組に沿って報告します。

札幌市が主体となって推進する環境教育・環境学習に関する取り組み

札幌市環境教育・環境学習基本方針で定めた 4 つの取り組み

- (1) 学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進
- (2) 「環境人材」の育成
- (3) 環境教育・環境学習の場と機会の充実
- (4) 普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押し

2 令和4年度実施状況及び今後の実施予定について

(1) 学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進

ア 環境副教材・教師用手引書

毎年度、市立小学校の新1、3、5年生の全児童に環境副教材を配布しており、それぞれ2カ年にわたって利用いただいています。また、併せて教師用手引書も作成しています。

より利用しやすい副教材・手引書とするために、「理科」「社会科」「家庭科」「生活科」「特別な教科 道徳」の各担当教員によるワーキンググループを組織して毎年度、改訂作業を行っています。

イ 環境教育へのクリック募金

インターネットを活用した環境教育への支援制度です。札幌市環境プラザのホームページ上で、協力企業（現在は7社）の環境活動を紹介しており、閲覧数に応じた金額（1クリック5円、月額上限2万円/社）を協力企業からご寄附いただき、それを原資に環境教育教材を購入し、希望する小中学校へ寄贈しています。

令和4年度は、令和3年度のクリック実績に応じて、協力企業様から合計168万円ご寄付を頂き、小学校34校、中学校6校の40校全ての希望校に手回し発電機、気体検知管、トマトやキュウリ等の野菜の苗などを寄贈しました。

なお、クリック募金のホームページ上には、寄贈された環境教育教材が各学校においてどのように活用されたのかを「事業報告書」として紹介しています。（参考資料1）

また、協力企業は7社で長期的には減少傾向にあり、委員からもっと周知したほうが良いとのご意見をいただいたため、今年は下記の啓発を行いました。

- ・啓発パネルを作成の上、環境広場さっぽろ等のイベントでの展示
- ・札幌商工会議所の会報誌9月号への記事掲載
- ・地下鉄駅掲示板にポスター掲示
- ・三角山放送局のSDGsトークコーナーでの宣伝

ウ エコライフレポート

子どもたちが声掛け役となって、家庭におけるエコ行動を促す取組として、平成 19 年度にスタートした事業です。

夏休み及び冬休みの前に、市立小中学校の全児童・生徒に対して、家庭で取り組むエコ行動を選んで実践できるチェック表を配布します。

令和 4 年度は「ゼロカーボン都市をめざそう！」をキャッチフレーズとして、冬休みは節電やごみの分別に取り組んでもらう内容としました。また、小学 4 年生以上には自らエコにつながると思う行動を考えて記入し、実践してもらう項目を設けてあります。今年の冬休みのレポートには、2023 年 4 月 15 日、16 日に「G7 札幌気候・エネルギー・環境大臣会合」が開催され、世界のリーダーが環境について話し合い、よりよい未来にするための会議が札幌で開かれることを知ってもらうための記事を掲載しました。

また、学校単位で子どもたちの取組結果を二酸化炭素削減効果に換算し、これを記した「認定証」を配布しており、子どもたちが自ら考えて実践した取組の中でユニークなものについては、認定証の中に「他にもこんな取組をしてくれました」という欄を設けて紹介しています。

今年度からは、紙のエコライフレポートを各学校で回収・保管し、環境局において集約・集計するという一連の事務作業の負担を軽減するため、教育委員会と協議し、一人一台配布されているタブレットのウェブアプリケーション「Google フォーム」を使用し、各児童・生徒がタブレットに取組結果を入力してもらう形式に変更することとしました。今夏は、学校の先生が生徒の入力状況を確認できないシステム仕様であった等の問題があり、例年と比べ取組率が低下してしまいました。そのため冬は、学校の先生が生徒の入力状況を確認できるようにシステム仕様を一部変更し、学校毎にグーグルフォームを使って児童が入力した一覧表を環境局に送付してもらうことにしました。(参考資料 2)

児童・生徒の取組状況

年度	取組学校数[校]		児童・生徒数 [人]		取組人数 [人]		取組率 [%]	
	夏	冬	夏	冬	夏	冬	夏	冬
平成 30 年度	301	300	133,230	133,419	126,654	124,161	95.1	93.1
令和元年度	299	298	132,935	133,038	126,859	124,282	95.4	93.4
令和 2 年度	295	298	132,842	133,133	124,874	124,977	94.0	93.9
令和 3 年度	296	296	133,335	133,335	125,221	123,329	93.9	92.5
令和 4 年度	297	-	132,541	-	108,614	-	81.9	-

エ 校外学習用バス貸出

環境に関する体験学習の場の提供を目的に、市内小中学校を対象に校外学習用バスの貸出事業を行っています。

学校現場のニーズなどを踏まえ、平成 28 年度から市外近郊や民間施設も見学対象施設に加えて、太陽光発電や風力発電の設備、LNG（液化天然ガス）基地などを校外学習モデルコースに組み込みホームページで紹介しているほか、各学校が独自に希望する見学先についても対応しています。

今年度は、昨年度同様、新型コロナウイルス感染症対策のため、児童・生徒が座席間隔を空けて乗車できるよう 1 台当たり 25 名定員とし、10 月 1 日から 11 月 30 日の期間に、37 校に貸出をしました。

昨年度までは応募校すべてに貸出できていましたが、今年度は応募校が多かったため、審査を行い 20 校が希望に添えない形となりました。来年度は、1 台当たりの定員等について教育委員会と協議し、できるだけ多くの学校に貸し出せるように検討していきます。（参考資料 3）

[バス貸出実績推移]

	H30 年度	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度
応募校数	49 校	46 校	—	29 校	57 校
利用校数	49 校	46 校	—	29 校	37 校
バス利用台数	98 台	96 台	—	94 台	127 台

※ 校数・バス利用台数は延べ数。

※ 令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中止。

<主な見学先（令和4年度）>

見学先	見学校数（延べ）
円山動物園	15校
下水道科学館	12校
環境プラザ	6校
さけ科学館	5校
水道記念館	3校
モエレ沼公園	3校
博物館活動センター	3校

オ 学校での出前講座の実施

札幌市では、市民への情報提供と対話の一環として、市職員が依頼に基づいて地域に出向き、所管事業について分かりやすく説明を行う「出前講座」を実施しています。

近年は、SDGsの普及や地球温暖化・気候変動への関心の高まりにより、これらの講座への依頼が増えており、総合学習などの授業の一環として活用されています。

【SDGs、地球温暖化・気候変動に係る出前講座・授業等実績】

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
小学校：件数 (参加人数)	6件 (438人)	4件 (368人)	2件 (180人)	5件 (351人)	4件 (214人)
中学校：件数 (参加人数)	1件 (18人)	2件 (59人)	6件 (1,033人)	8件 (1,202人)	3件 (773人)
高等学校：件数 (参加人数)	1件 (30人)	9件 (1,572人)	2件 (40人)	4件 (365人)	1件 (60人)
合計：件数 (参加人数)	8件 (486人)	15件 (1,999人)	10件 (1,253人)	17件 (1,918人)	8件 (1,047人)

※ 令和4年度は11月末までの実績。

カ 環境に関する全園・全校の取組【教育委員会】

教育委員会では、「環境首都・札幌」の宣言日である6月25日の前後2週間を「さっぽろっ子環境ウイーク」期間とし、この期間中、エコスクール宣言校である全ての市立園・学校が、環境に関わる取組（以下、「エコアクション」）を重点的に見つめなおすことで、年間を通して、札幌市の幼児児童生徒に環境を守り育てようとする態度を育んでいます。引き続き、SDG s の視点で教育課程を見直し、環境について、持続可能な取組をエコアクションに位置付けていきます。

(2) 「環境人材」の育成

ア 環境保全アドバイザー・環境教育リーダー派遣【環境プラザ】

市民団体、町内会、学校などに対して、環境に関するアドバイザーやリーダーを派遣する制度です。

「札幌市環境保全アドバイザー派遣制度」は、地球環境、自然保護、リサイクル、ごみ問題等など、様々な環境分野の研修会や学習会等に専門家を派遣する事業で、令和4年11月30日現在、10人のアドバイザーに登録いただいています。

「札幌市環境教育リーダー派遣制度」は、主として野外での活動を通して、植物、野鳥、昆虫、水生生物などの自然観察会や地球温暖化、ごみ、エコライフ分野の指導者や解説者を派遣する事業で、令和4年11月30日現在、26人のリーダーに登録いただいています。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策に係る緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置のため、5月4日～7月11日及び8月28日～9月30日まで派遣事業を中止したことから派遣件数や参加人数はコロナ禍以前の年度に比べ大きく下回りましたが、今年度につきましては、通常通り5月1日から翌年3月31日まで派遣を行う予定であり、現在までの派遣件数は、コロナ禍以前の件数に追いつきつつあります。例年利用いただいている団体を中心に依頼をいただいております。小学校の依頼も戻ってきています。

新型コロナウイルス感染症に留意しながら派遣を継続し、新規団体に向けた利用促進を実施していきたいと思います。

【派遣実績】

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度 11 月 30 日現在
環境保全アドバイザー — 派遣件数 (参加人数) <登録者数>	40 件 (1,530 人) <13 人>	39 件 (1,764 人) <12 人>	17 件 (304 人) <11 人>	15 件 (327 人) <11 人>	18 件 (416 人) <10 人>
環境教育リーダー — 派遣件数 (参加人数) <登録者数>	75 件 (2,175 人) <32 人>	57 件 (1,736 人) <31 人>	32 件 (798 人) <29 人>	36 件 (833 人) <28 人>	58 件 (1,293 人) <26 人>

イ こどもエコクラブ【環境プラザ】

環境プラザは、公益財団法人日本環境協会が実施するこどもエコクラブの札幌市内における事務局を担っており、こどもエコクラブへの登録団体及びこれから環境に関する活動を始めようとする団体への情報提供を行っています。

令和 3 年度から、環境プラザが自ら運営するこどもエコクラブを立ち上げ、「さっぽろあそエコ団」として活動を行っています。市内の川や公園、山での自然体験活動 4 回を含む全 9 回を実施・予定しており、11 月 26 日には保護者に向けた活動発表を行いました。12 月 10 日に行われる「さっぽろこども環境コンテスト」にも出場し、活動発表を行う予定です。

本事業は毎年多くの参加希望者が集まり、ニーズの高さが伺える事業であるため、今後も内容を刷新しながら継続して実施していく予定です。

ウ 指導者向け研修【環境プラザ】

教員や保育者など、子どもたちへ伝える立場の方を対象に、環境教育や環境保全活動をテーマとした講座等を実施しています。

10 月 25 日、26 日に児童会館職員 100 名に向けて「職員が体験！環境教育プログラム！」を実施しました。環境プラザで実施している見学ツアー（展示解説やアクティビティの体験）をとおして、職員の環境保全の意識向上を目指すとともに、子どもたちによりよい環境教育プログラムを提供できるよう、環境プラザの活用方法を紹介し、各児童会館での利用促進に努めました。研修後 3 件の児童会館から見学ツアーの申し込みを受けており、

子どもたちへの直接的な環境教育の機会につながりました。

エ 環境教育・子どもワークショップの開催

これからの未来を担う子どもたちが、地球環境を意識して生活する心を育み、自発的な行動につなげるきっかけとなることを目指し、令和2年度から「環境教育・子どもワークショップ」を開催しています。今年度は、令和5年1月21日（土）及び28日（土）に、各日5か所ずつ、計10か所の児童会館に通う小学生を対象として開催予定です。

また、今年度は、令和5年4月15日、16日に開催されます「G7札幌気候・エネルギー・環境大臣会合」の開催記念事業として実施することとしました。

ワークショップは、本部のメインファシリテーターから児童会館の各会場にオンラインでプログラムを配信し、各会場では現地のファシリテーターの誘導により子どもたちが対面によりコミュニケーションを取るとともに、オンラインで各会場とも意見交換するなど、オンラインと対面をミックスして行います。

併せて、環境教育に興味があり、ワークショップ等のスキルを身につけたい高校生・大学生などの若い世代の人材育成にも同時に取り組むこととし、希望する若者を対象にファシリテーター等の養成研修会を実施し、子どもワークショップの運営スタッフの一員として活動してもらいます。

(参考資料4)

オ 教員に向けた研修【教育委員会】

教育委員会では、札幌市の学校教育に携わる教職員の資質向上と専門的な力量を高めることを目的に、「環境教育へ役立つ施設の活用」や「環境教育の基礎」、「SDGs・ESDの基礎」など環境教育に関する専門的研修を実施し、今年度も延べ70人以上の教員が受講する見込みとなっています。

(3) 環境教育・環境学習の場と機会の充実

ア 学習支援等【環境プラザ】

環境プラザ見学者への展示解説や展示物を利用した見学者向け環境教育プログラムの実施、教材の貸し出しなど、利用者の要望に合わせた学習支援を行っています。

毎月第2土曜日には「あそびバ！エコプラザ」として、ゲームや紙芝居、工作体験などを利用した環境学習の機会提供を行いました。

学校のSDGsへの関心の高まりから、施設見学については、今年度すでに市外の中学校から環境学習やSDGsをテーマとした依頼を新規で数件いただいております。SDGsと環境問題の関連を明確にした展示解説や、札幌市独自の取り組み、環境プラザの取り組みを、SDGsを絡めて紹介しました。

学校のニーズとしては、SDGsと関連した取り組みの具体例を知りたいと希望するところが多かったため、環境プラザと運営元を同じくし、共にエルプラザにある、「市民活動サポートセンター」、「男女共同参画センター」とも協力し、各施設で行っている取り組みがSDGsとどの様な関連があるのかを紹介しました。エルプラザの独自性を活かし、様々な分野の取り組みについてご紹介しました。今後もそのような希望が多くあることが予想されるため、プログラムの刷新や新たなアクティビティの開発を行っていく予定です。

イ 各種講座等の実施【環境プラザ】

環境プラザで毎年開催している幼児親子向けの自然遊び体験事業を今年も札幌市定山溪自然の村と連携し実施しています。宿泊編と日帰り編を実施しており、10月16日の日帰り編では北海道大学をフィールドに秋の自然物を使った様々なあそびや集めた木の実や葉っぱを使った冠づくりを行いました。11月6、7日の宿泊編は、定山溪自然の村の自然豊かなフィールドの中で、自然あそびやクッキング、キャンプファイアーを行い、全身で自然を体感するプログラムを提供しました。冬の自然体験あそびの事業も予定しており、1月22、23日に定山溪自然の村での宿泊編、2月12日に北海道大学で日帰り編を実施予定です。

ウ さっぽろこども環境コンテスト 2022

小中学生が日頃、環境のために取り組んでいる活動を発表するコンテストとして、平成 20 年度から実施しています。活動の発表を通じて、周囲の子どもたちのほか、大人たちにも活動の輪を広げていくことを目的としています。

これまでのステージ発表に代え、札幌市環境プラザを本部とし、各発表団体の会場をリモート(ZOOM)でつなぎ、本部の司会進行のもと、オンライン形式で各団体に発表していただく形式として実施し、発表の様子は後日審査結果と共に札幌市 HP に公開します。

また、今年度は、令和 5 年 4 月 15 日、16 日に開催されます「G7 札幌気候・エネルギー・環境大臣会合」の開催記念事業として実施することとしました。来年度は、なるべく多くの団体が参加できるような形式での開催の検討を進めていきます。(参考資料 5)

[令和 4 年度発表団体]

小学校の部 (1 団体)	中学校の部 (2 団体)	学校外団体の部 (4 団体)
・美しが丘小学校 6 年生	・青葉中学校 ・米里中学校科学部	・旭山自然調査隊 ・北野台児童会館 KDGs クラブ ・栄西児童会館こどもエコクラブ タッピーファーム ・さっぽろあそエコ団

《審査員》

審査員長	北海道大学大学院文学研究院 教授	大沼 進 氏
審査員	NPO 法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト理事長	坂本 純科 氏
審査員	札幌平岸高等学校 学校長	黒宮 裕久 氏
審査員	札幌市環境局環境都市推進部長	菅原 祐雄

(4) 普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押し

ア 環境プラザホームページ等【環境プラザ】

環境プラザでは、講師派遣や貸出教材、事業などについてホームページで情報提供を行っています。

また、フェイスブックへの投稿や、「エコチャン!!ー環境プラザ YouTube チャンネル」へ作成した動画をアップロードするといった情報発

信も昨年度より継続して実施しています。

加えて今年度からは Instagram を開設し、写真や動画を多用した投稿をすることでユース世代への情報発信強化を目指しています。

【ホームページアクセス件数】

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度 11 月 30 日現在
環境プラザHP	80,680	76,950	73,648	103,999	73,649

イ 環境広場さっぽろ 2022 の開催

「環境広場さっぽろ」は、子どもたちを主たる対象に、環境教育を目的とした「みらいを想う総合環境イベント」です。平成 30 年度、令和元年度は札幌ドームを会場に開催しました。

令和 2 年度、令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、札幌ドームでの開催を見送り、札幌ドームをモデルとした仮想空間を会場とするオンラインイベントとして開催しました。

今年度は、「環境広場さっぽろ 2022」を、令和 4 年 7 月 30 日（土）、31 日（日）の日程で、3 年ぶりに札幌ドームで開催しました。

（期間中来場者 15,234 人、バーチャル会場アクセス数 6,036 人、217 企業・団体が出展）（参考資料 6）

ウ 「環境中間支援会議・北海道」の取り組み【環境プラザ】

環境中間支援会議・北海道」は、行政や地域など、様々な組織との間に立って、情報提供やアドバイス、コーディネート等のサポートを行う会議です。環境省北海道環境パートナーシップオフィス（通称：EPO 北海道）、公益財団法人北海道環境財団、札幌市環境プラザ、NPO 法人北海道市民環境ネットワーク（通称：きたネット）が連携して、北海道内における様々な環境活動の支援を行っています。

また、環境省北海道地方環境事務所、北海道、札幌市もオブザーバーとして、定期的に参加される会議に参加しています。

なお、ホームページ「環境☆ナビ北海道」において、環境に関するイベント情報や助成金などの公募情報、キャンペーン情報などを配信しています。

エ 「令和4年度環境教育・環境学習ガイド」の発行

「札幌市環境教育・環境学習基本方針」に基づき、環境問題の理解促進や環境保全行動の推進に向けて、札幌市の各部局が行っている取組をまとめた「環境教育・環境学習ガイド」を毎年度発行しています。

学校や市民への広報、情報提供を行い、各取組への市民参加を促進し、環境教育・環境学習の一層の推進を図ります。

併せて、札幌市各部局の環境教育・環境学習に対する意識を高め、基本方針の趣旨に沿った事業展開を促します。(参考資料7)